

## 国際交流員のコラム

### ● 藍染：ジャパンプルーの魅力●

—鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン（シンガポール出身）—

鹿児島で伝統工芸の「藍染（あいぞめ）」が体験できるのはご存知ですか？

南さつま市にある「藍染屋」という工房がその工芸を今も守り続けています。

今日は一緒に見て行きましょう！



工房「藍染屋」

### 「藍染」とは

藍染（あいぞめ）とは、化学薬品を使用しない100%自然な日本の伝統的な染色技法です。

複雑な発酵プロセスにより、色が褪せにくく鮮やかで深みのある藍色を生み出す染料は、日本を象徴する色あいとして「ジャパンプルー」の名前で世界的に有名です。

藍染に使われている藍は一説では、人類最古の染料とも言われていて、日本もその歴史自体は、古くからあります。しかし、広く人々に普及したのは藍染に適した木綿の衣類が増える江戸時代からです。

当時日本に訪れた外国人は、その深い藍色が日本の象徴であると考え、1870年代に来日したイギリス人化学者によって「ジャパンプルー」という名前が付けられました。



工房の中

現在、多くの藍製品には合成染料が使用されていますが、藍染職人が伝統や技術を受け継いだおかげで、現代でもその伝統的な藍染を生かし続けることができました。

## 藍染屋



豊かな自然に囲まれた工房

緑豊かな山々，自然の風景と新鮮な空気に囲まれた工房「藍染屋」で藍染めの体験ができました。藍色に染められた衣類やアクセサリを販売しているお店も工房の隣にあります。藍染体験は30年様々な染物を体験し身に着けた，染め師の神園先生が丁寧に指導してくださいました。

## 藍染体験

まずは，アトリエにある発酵した染料の入った桶を見せてもらい，発酵工程や使用する染料について紹介してもらいました。

そこで，染料液は現在でも発酵し，生き続けており，常に栄養を与え続け育てなければならず，同じ原料でも桶ごとにわずかな違いがあるため，異なる色合いの藍が生まれていることがわかりました。

先生からも段染めや絞り染めなどの技法を説明してもらい，そのあと自分の希望のデザインや染めたい物（ハンカチ，バンダナ，ストール）を決めました。



染料



藍染の原料



私はストールを段染めで染めたいと思い、まず布を全体的に染めてから、少しずつ他色に染めたい部分を縛って何度も浸す作業をしました。

浸す合間に、布を取り出して空気に触れさせ、希望の色合いが出るまで繰り返しました。

その作業が終わった時点では、布の色は青ではなくて深い緑でした。好みの色合いになったら、水洗いと脱水をして乾燥しました。ここで、やっと美しい藍色が現れました。



布を染料に入れている私



染料に浸す布



水洗いをして藍色を出す



浸す合間に自然乾燥させる深い緑色の布

### 感想

私は、もともと手芸が好きで、今回の体験を通して伝統工芸である、藍染について学ぶことができて良かったです。

先生のおかげで楽しい体験に加え、藍染めについて、たくさん学ぶことができました。



桜島のシルエットをイメージしたデザインが完成！

自分で実際にやってみることで、天然の素材からの染液作り、複雑な作業の工程による染め藍の管理等には、多大なる手間と労力が必要であることを、より深く知ることができました。藍染めには本当に愛の力が必要だということですね！

江戸時代から伝わる伝統の技法自体も非常に意味があると感じられました。

とても興味深く、古い歴史を持っている藍染という日本の伝統工芸の魅力、藍染屋で体験してみたいかがでしょうか。

ぜひ足を運んで自分の手でやってみてください！



自然光を浴びている完成品

藍染屋 | aizomeya 

### 藍染屋

住所：〒899-3402

鹿児島県南さつま市金峰町大坂  
7764-1

Tel: 0993-78-2897

HP: <https://aizomeya.work/>



染め師の神園先生と私たちの完成品